

日本応用地質学会
岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）

第 1 回議事録

平成 20 年 1 月 15 日

1. 日 時：平成 19 年 11 月 13 日(木)14:00～17:00
2. 場 所：応用地質学会事務局
3. 出席者：平野委員長、伊東、遠藤、小熊、小島、都築、宮下、山本、綿谷、江口
計 10 名
4. 資 料：
 - ・議事次第
 - ・資料 1-1 岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）委員名簿
 - ・資料 1-2 岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）設立趣意書
 - ・資料 1-3 岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）活動計画 Ver. 2
 - ・資料 1-4 技術書目次案（修正版）
 - ・資料 1-5 作業工程案
 - ・資料 1-6 アンケート集計結果
5. 議 事：
 - 5-1 委員名簿の確認、委員長、幹事の選出
委員名簿の確認を行った。
また、委員長に平野、幹事および研究企画委員に江口を選出した。
 - 5-2 委員会趣旨の確認
平野委員長より設立趣旨および活動計画の説明があり、審議の結果以下のような方向性で技術書を作成することとした。
(当面下記の方針で執筆することとするが、執筆中に問題が発生した場合はその都度議論する。)
 - ・技術書の方向性としては、岩盤分類を主眼としつつ、「応用地質学とは何か」ということを若手向けに示す本とする。
 - ・執筆方針は、第一期の成果をベースに、技術書として足りない部分を補うこととする。
 - ・「若手地質技術者や設計・施工に携わる土木技術者など関連技術者を対象とした技術書」を作成する観点から、第 3 章岩盤の地質要素と地質現象、第 4 章岩盤と工学的性質、第 8 章岩盤分類のための調査・計測についての記載をもっと充実させる。
 - ・若手地質技術者を対象とするため、基礎から一步一步積み上げるような記載を心がける。
 - ・岩盤分類や岩盤の物性値を間違っ使用されないようにするための注意を記載する。
 - ・技術書のタイトルは「岩盤の評価と工学分類の最新技術」（仮）とする。
 - ・新たな分野については、既存の研究事例やデータを元に記述することとし、小委員会で新

たな項目設定や研究は行わない。

5-3 技術書目次案について

技術書目次案（修正版）およびアンケート結果の説明があり、審議の結果以下のように修正した上で、修正版を次回の小委員会までにメール等で各委員に確認していただいた上で、次回の小委員会で目次案を決定することとした。

- ・第9章の海外の岩盤分類については、代表的な分類について第2章の概説に記述することとし、収集した分類事例は付録として記載することとする。

- ・第2章の概説と第5章の総論は似たような項目であるため、同一の章にまとめて記述する。

また、執筆希望については委員の間で偏りがあったため、委員長、幹事で案を作成し、執筆分担案を次回の小委員会までにメール等で各委員に確認していただいた上で、次回の小委員会で執筆分担案を決定することとした。

5-4 技術書作成工程について

技術書作成工程案について説明があり、委員から以下の意見があった。

- ・査読、編集については半年では足りないのではないか。また、小委員会外の査読も必要ではないか。

- ・講習会を1月以降という年度末に実施しても集まらないのではないか。

これらの意見をふまえ、工程については以下の通り修正することとした。

- ・講習会の実施を2010年5月の実施とし、出版を2010年1月とする。

- ・査読については小委員会外の応用地質学会委員にもお願いすることとする。そのため査読、編集に時間がかかることから査読、編集期間を2009年1月～12月の1年間とする。

5-5 新たな岩盤分類分野における研究項目について

新たな岩盤分類分野における記載については、各分野において総論的な記載をした上で各事例の記載を行うこととした、

また、アンケートで意見のあった「自然斜面の岩盤分類」については、とりまとめ方によっては第3章岩盤の地質要素と地質現象、第8章岩盤分類のための調査・計測について（特にボーリングについて）にも記述可能なテーマであるため、内容を再度確認する。

5-6 小委員会の運営体制について

アンケートの意見にあった小委員会の運営体制について審議を行い、編集を担当するWG、販売や許認可に関するWGを設置することとした。これらの作業内容や分担については委員長、幹事で案を作成し、次回の小委員会までにメール等で各委員に確認・意見を頂いた上で次回の小委員会で決定することとした。

5-7 次回の開催について

次回の開催は平成20年1月31日（木）14:00から学会事務局で行うこととした。

以上